児童養護施設の子どもと職員のプログラム

安心と安全を与えてくれるはずの親から、いつ終わるとも知れない暴力や暴言を受け、または育児放棄され続けた子どもたちが、やっとの思いでたどり着く場所である児童養護施設。ことばキャンプは、話す力、聞く力を楽しく学ぶプログラムです。暴力でなく自分の気持ちや考えをことばによって表現できるようになり、人の話を聞けるようになります。

こうした目的を施設の職員の皆様といっしょに力を合わせて取り組みます。子どもと職員がいっしょになって参加することで、日々の養育に生かすヒントが得られることでしょう。

施設内コミュニケーションが円滑になる

ことばキャンプの職員研修では、コミュニケーションの基礎を楽しく学びます。コミュニケーションの苦手な子どもたちに対しての声かけやことばの引き出し方法など、実践的な内容なので日々の養育に生かすことができます。

また、プレゼンテーションやフィードバックといったビジネススキルの習得、自発的に行動するために行動変容を促したり、仕事にやりがいを感じるモチベーションアップを図るなど、人材育成の研修としてもご活用いただけます。

コミュニケーション力を磨く研修を受講することで、職員間のチームワークが良くなり、施設内コミュニケーションの円滑化に寄与することでしょう。

参加者の声

子ども

- 初めてがたくさんあったけどがんばった。ことばキャンプを生活でも生かして、はずかしがらずに発表したいです。
- ぼくは、ことばキャンプをしていろいろ言葉が出るようになったからよかったです。またいつかできたらいいです。
- ゲームが楽しくもう少しやりたかった。
- はげます言葉を書くのが楽しかった
- 手を挙げて、自分で前に出て発表できてよかった
- 理由や意見をグループでしっかり話すことができた
- クッションことばでは、知らない人には敬語を使った会話を考えることができた

職　員

- プログラムを通して、参加する皆が他者と共有して生きている、生かされていることを感じることのできる時間ではないかと考えます。プログラム終了後の私は、子ども達へのアプローチは思慮深くなり、大きな問題行動にどう対応するかではなく、生活場面での継続性のある直接的、間接的なアプローチがいかに大切であるかを強く認識することができました。
- コミュニケーションを苦手とする子どもたちに対してのことばかけやコミュニケーション法を学ぶ時間となると思っていましたが、自分自身の思考の特性について学ぶことができ、強み弱みについて毎回考える時間となりました。参加させていただいた職員も発言数が増えたり、人前で話すことが得意でなかった人も、回数を重ねることで自信がついてきていると変化を感じた時間でした。
- ことばキャンプの時間と場所が、誰かに責められたり、正解でないといけなかったりするような場所ではないことがわかってきて、子どもたちは堂々と自分の意見を発表するようになりました。ことばキャンプでは自分の意見を言えば必ず先生は褒めてくれ、職員や子ども達からも「花まるメッセージ」をもらえる。これは子どもにとって大きな安心感に繋がっていたと思います。私はことばキャンプを通してこの安心感こそが子どもたちの成長にとても大切なものだと感じました。日々の暮らしの中でも子どもたちの言葉に耳を傾け、受け止め、時には励まし、褒める。この毎日の繰り返しが子どもたちに安心感を与え、子どもたちの意欲や自信に繋がっていくと思います。子どもたちの一つ一つの言葉を大切に、これからも養育に向かっていきたいと改めて感じています。

児童養護施設の施設長にご参加いただき、「児童養護施設に暮らす子どもたちのコミュニケーション　全国の子どもたちに「ことばキャンプ」を！」を実施いたしました。

ことばキャンプ事務局

〒231-0002 横浜市中区海岸通4-21 倉田ビル702

TEL: 045-274-8327
e-mail: info@kotobacamp.com
web: http://www.kotobacamp.com
facebook: www.facebook.com/kotobacamp

このパンフレットはジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成金を受けて制作しました。

ことばのチカラ。それは21世紀を生き抜く大きな原動力。

ことばキャンプの研修プログラム

特定非営利活動法人 JAMネットワーク